モモの栽培・防除暦（令和３年版）

生産履歴の記帳を行いましょう

月	旬	生育相	重点作業	対象病害虫	基幹防除	100ﾘｯﾄﾙ当り薬量	補完防除及び注意事項	散布量 散布日 記入欄
1			整枝･せん定	◎切り口及び傷口のゆ合促進	ﾄｯﾌﾟｼﾞﾝMﾍﾟｰｽﾄ　原液塗布 （せん定整枝時，病患部削り取り直後，及び病枝切除後）		※　特に1cm以上の切り口には必ず塗布する	月　日
2			誘引	◎縮葉病，胴枯病 黒星病	石灰硫黄合剤　20倍	5ﾘｯﾄﾙ	※　石灰硫黄合剤は，晴天無風日を選び，目を保護（ゴーグル）して，飛散に注意する	月　日 ﾘｯﾄﾙ
3	中 下	出蕾期 開花期	摘蕾，摘花 晩霜対策	◎せん孔細菌病 縮葉病	ﾑｯｼｭﾎﾞﾙﾄﾞｰDF　500倍	200g	※　農薬登録上の使用時期は開花前までだが，発芽前の散布が効果が高い	月　日 ﾘｯﾄﾙ
4	上 中 下	落花期 展葉期 生理落果期 新梢伸長期	人工受粉 芽かき 予備摘果 一次摘果 ねん枝	◎灰星病，黒星病 せん孔細菌病 ◎ｱﾌﾞﾗﾑｼ類， ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ ◎灰星病，黒星病 せん孔細菌病 ◎ｱﾌﾞﾗﾑｼ類， ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ ◎灰星病，黒星病 ◎せん孔細菌病	ﾁｵﾉｯｸﾌﾛｱﾌﾞﾙ　500倍 ﾀﾞﾝﾄﾂ水溶剤　4,000倍 ﾃﾞﾗﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ　600倍 ｽﾐﾁｵﾝ乳剤　1,000倍 ｱﾝﾋﾞﾙﾌﾛｱﾌﾞﾙ(SBI)　1,000倍 ﾊﾞﾘﾀﾞｼﾝ液剤5　500倍	200cc 25g 166cc 100cc 100cc 200cc	※　殺虫剤は開花期以降に散布する ※　炭そ病･灰星病の被害果は園外に処分する ※　花がら落としを徹底する ※　SBI剤は効果が高いが，連用すると耐性菌発生の恐れがあるので連用しない	月　日 ﾘｯﾄﾙ 月　日 ﾘｯﾄﾙ 月　日 ﾘｯﾄﾙ
5		果実肥大期 新梢停止期 （硬核期）	仕上げ摘果 ねん枝 袋掛け	◎灰星病，黒星病 せん孔細菌病 ◎ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ◎灰星病，黒星病 ◎ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ， ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	ﾃﾞﾗﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ　600倍 ｱｸﾀﾗ顆粒水溶剤　2,000倍 ｵﾝﾘｰﾜﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ(SBI)　2,000倍 ｵﾘｵﾝ水和剤40　1,000倍	166cc 50g 50cc 100g	※　灰星病は収穫20日前頃から果実への感染が多くなるため，品種に応じて防除 ○ｺｽｶｼﾊﾞ，ｼﾝｸｲﾑｼ類，ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ ｻﾑｺﾙﾌﾛｱﾌﾞﾙ10　5,000倍（収穫前日まで）	月　日 ﾘｯﾄﾙ 月　日 ﾘｯﾄﾙ
6	上 中	成熟期･収穫 ･はなよめ･さおとめ ･ちよひめ　･山富士白鳳		◎灰星病，黒星病	ｱﾐｽﾀｰ10ﾌﾛｱﾌﾞﾙ　1,000倍 （収穫前日まで）	100cc	○黒星病，灰星病 ○ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ，ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾌﾙｰﾂｾｲﾊﾞｰ　1,500倍(前日まで) ｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤　2,000倍(前日まで) ※　雨天時の収穫は控える ※　適期収穫に努める	月　日 ﾘｯﾄﾙ
7		花芽分化期 （7～8月）		◎せん孔細菌病	ICﾎﾞﾙﾄﾞｰ412　30倍	3.3kg	○ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ ﾀﾞﾝﾄﾂ水溶剤　4,000倍	月　日 ﾘｯﾄﾙ
8 9			夏季せん定 台風対策				○せん孔細菌病 ＜台風通過前＞ ICﾎﾞﾙﾄﾞｰ412　30倍 ＜台風通過後＞ ｽﾀｰﾅ水和剤　1,000倍	
10 11	中	落葉期	基肥					
12		休眠期	土づくり （堆肥･苦土石灰）	◎ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	ｽﾌﾟﾚｰｵｲﾙ　30倍	3.3ﾘｯﾄﾙ	○ｺｽｶｼﾊﾞ ﾗﾋﾞｷﾗｰ乳剤　200倍 （落葉後～発芽前《休眠期》） ･落ち葉は園外に持ち出す	月　日 ﾘｯﾄﾙ

農薬散布時は飛散防止に努めましょう

注1）令和2年10月28日現在の登録内容に基づき記載
注2）農薬使用時期･使用回数等については別紙参照

施肥基準例　　みかん秋ライト（13-9-8）（15kg袋）使用の場合（10aあたり）

	生産量　1.0t	生産量　1.5t	生産量　2.0t
基肥（11月中旬）	３　袋	４　袋	６　袋
堆　肥（12月）	完熟牛ふん堆肥　500kg		
苦土石灰（12月）	80～100kg		

農薬登録内容が変更されている場合があるので，農薬使用の前には表示ラベルをしっかり確認しましょう！

鹿児島県園芸振興協議会姶良支部